

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書

研究期間（ 1年目/ 3年間）

研究者 又は 研究代表者	氏名	(ふりがな) たなか ひびき 田中 響
	所属研究機関 部局・職	鳥取看護大学 看護学部 看護学科 教授 電話番号 0858-27-2800 電子メール t_hibiki@ns.tcn.ac.jp
研究課題名	地域創生に貢献する人材育成と地域活動の検証 ～鳥取看護大学型「まちの保健室」活動の実践を通して～	
研究結果	<p>「まちの保健室」を鳥取県の全域で実施するという目標は、倉吉市を中心として、鳥取市、米子市、日吉津村、北栄町、湯梨浜町、琴浦町、三朝町で実施することが出来た。さらに「まちの保健室」の利用者は目標値を超え、総延べ数2271名となった。「まちの保健室」の形態別の地域住民の延べ参加数は、拠点型：271名、準拠点型：139名、出前・イベント型：1780名、子育て支援型：27名であった。本研究とは別に「まちの保健室」形態別参加者の健康調査しているため、本研究ではその調査報告を待つこととし、「まちの保健室」運営・実施への支援を中心とした活動を展開した。また、学生全員が「まちの保健室」に参加できるシステムの構築を図るため、科目と連動させ、学生の参加を促した。科目の中に、「まちの保健室」への参加は、科目における学びを深めるための実践と位置づけた。その結果、1,2年生の学生全員が「まちの保健室」に年間2回以上参加できた。学生参加の延べ人数は、324名であった。</p> <p>「まちの保健室」の効果についての調査は、学生にフォーカスグループインタビューを2回、利用者へのインタビューを1回実施した。</p>	
研究成果	<p>今年度は、「まちの保健室」の運営や学生参加、地域の健康づくりリーダーの参加など実践への支援を中心とした取り組みとなった。特に鳥取看護大学で実施される拠点型・準拠点型「まちの保健室」の運営を中心に活動・調査を行った。その結果、拠点型・準拠点型「まちの保健室」を利用した利用者数は410名で、リピーターが70%を占めていることが明らかとなった。</p> <p>利用者の健康意識調査や学生参加による効果については、現在フォーカスグループインタビューの結果を分析中である。</p> <p>「まちの保健室」に参加した学生へのインタビュー結果から、学生は、「まちの保健室」活動を通して、「まちの保健室」を利用する地域住民を理解しようと呼びかけ、「まちの保健室」という場やその機能について考えることができていた。さらに、「まちの保健室」を通して地域のことを知る・学ぶ場として認識し、参加することを楽しさや面白さを見出していた。その上で「まちの保健室」への新たな提案も考えていた。また、参加することで学生自身と向き合う機会にもなっていることもわかった。利用者へのインタビュー結果と合わせてさらなる分析を行いたい。</p> <p>「まちの保健室」に参加される地域住民の健康調査については、鳥取看護大学の研究報告を待ち、本研究における学生の参加による効果や地域の健康づくりリーダーによる効果と合わせて分析していく。</p> <p>「まちの保健室」が学生にとってどのような教育的効果をもたらすのかを、経年的に追跡していく。</p>	
次年度研究計画	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県全域で、「まちの保健室」の実施を継続し、地域別または「まちの保健室」の実施形態別の特徴を見出す。 ・2年間「まちの保健室」に参加することで学生の地域志向性の変化をとらえる。 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域別に「まちの保健室」利用者の健康の推移を調査し、比較検討する。 ・利用者および学生にインタビューを実施し、「まちの保健室」の効果を調査する。 ・学生にインタビュー及び質問紙調査を行う。 	

報告責任者	所属・職 氏名	鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 西垣ちひろ 電話番号 0858(27)0107 電子メール nishigaki@ns.cygnus.ac.jp
-------	------------	--

注1) 表題には、環境創造部門、地域振興部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。

2) 「研究期間（ 年目/ 年間）」及び「次年度研究計画」は、環境創造部門及び地域振興部門において記載すること。

3) 研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。

4) 研究実績のサマリー及び図表資料を併せて提出すること。